

■子どもにとって、おじいちゃん、おばあちゃんと接する利点は何ですか。

今、私がとても懸念していることは、子どもたちが大人になるまでに出会おう大人の数が減っている、いろいろな年代の人のいろいろな考え方にふれる機会が減っていることです。昔は兄弟、親族の数も多く、いろいろな立場の人の考えにふれることができました。しかし最近では、両親の考えにしかふれることがない場合が多く、両親と同じ考えでなければいけないと考える人もいます。おじいちゃんやおばあちゃんには、子どもたちが別がつくようになったら、ご自身の考えを子どもたちに伝えてほしいと思います。今の子どもたちが出会っている大人は、習いごとの先生などです。そのため、お客様扱いをされ、自分の意見がほぼ通ってしまう社会でしか子どもたちは生きていません。そういった利害関係なしに、真摯に自分の考えを伝えてくれる人の存在は、とても大切だと思えます。

■おじいちゃんやおばあちゃんが伝えるべきことは何ですか。

欲張らなくていいので、ご自身が知っていることや経験したことを、思い出話のようにしてもらってだけで、今の子どもたちが知らないことがたくさんあると思います。「おじいちゃん、おばあちゃんが子どものころはこうだった」と話をしてください。話をしたそのときは、「おじいちゃんやおばあちゃんは、変なことを言っているな」と思われるかもしれませんが、でも成長過程のどこかで、「あつ」と心に留まる時期がくるでしょう。長く生きてきた人の言葉というのは、どこかで心の支えになると思います。

■おじいちゃんとおばあちゃんのそれぞれの良い点を教えてください。

おじいちゃんは「楽しいことに付き合ってくれて余計なことをあまり言わない」、おばあちゃんは「子育ての先輩、経験者として頼れる存在、良き相談者」といった特長があります。それぞれの役割があつていいと私は思います。

## 「昔はこうだったよ」思い出話を

子どもたちに伝えてほしい

■パパやママが気をつけた方がいいことは、どんなことでしょうか。

おじいちゃんやおばあちゃんたちに、子育てのサポーターとして味方になってもらうのか、敵に回してしまうのかは、パパとママのコミュニケーション能力に左右されます。教育方針や子育て方針、働き方の話などは、ざっくりばらんに家族で話ができたらいいと思います。

最近では、夫婦で、働くのも半分ずつ、家事も育児も半分ずつという家庭が増えてきています。大切なのは、それぞれの家庭でバランスが取れているかどうかです。男は外で働き、女は家を守るのが当たり前であった時代を生きたおじいちゃんやおばあちゃんも含めて、今の状況を理解し合って、「う

## おじいちゃんやおばあちゃんも一緒に、ざっくりばらんな家族会議を

ちの場合はこのパターンだから、うまくいくようにみんな考えていこう」ということが必要です。「家族会議をしましょう」と私はよく言っているのですが、みんなで方向性を決め、互いに理解、協力し合えれば、問題ないでしょう。子育ての方針を決め、責任をとるのは、母親や父親であるべきです。おじいちゃんやおばあちゃんに責任を、主たる養育者にはならないように気をつけましょう。これは経済的にも言えます。おじいちゃんやおばあちゃんがお金を出してくれる便利屋さんになってしまうと、トラブルになってしまうことが多いようです。「親しき仲にも礼儀あり」。「金の切れ目が縁の切れ目」になってしまわないよう、注意しましょう。

